

未来社会を創る3つのメガトレンド

未来予測レポートでは、社会全体の大きな潮流の変化を「メガトレンド」と呼んでいる。具体的には「サステナビリティ」「クラウド・コンピューティング」「ライフ・イノベーション」の3つである。社会が変われば、求められるビジネスもまた変わる。10年～15年先のビジネスを考える上で、これらは「未来」を形作る大きな流れとして確実にとらえるべきである。

サステナビリティ

「モノが足りない」ことを前提とする社会がこれから本格的に始まる。現在は、エネルギーや資源、食料など、基本的にはお金さえ出せば好きなだけ買うことができる。だが今後新興国で人口増加と経済成長が重なると、あらゆるモノの需要が急増する。世界的な需給逼迫を背景に「困り込み」が本格化する。大量生産と安さを追求する成長モデルが終焉を迎え、「ものづくり」のさまざまな常識が変わっていく。

ライフ・イノベーション

「ゲノム」技術の進歩によって、生命に関する過去の常識を覆すようなさまざまな変化が起きる。21世紀に入って、人類は「生命の設計図」を解読し、改変さえも可能になり始めている。病気の根本的原因や老化のメカニズムの解明など、医療では革命的な変化が始まっている。生命を人為的に制御することは、農業や漁業、畜産などにも多大な影響をもたらす。価値観やライフスタイルも大きく変わることになる。

クラウド・コンピューティング

ブロードバンド環境を前提とする「コンピューティング革命」が始まっている。さまざまなデバイスやセンサーがブロードバンドにつながるようになり、それらはデータセンターと「一体化」する。ネットを通じて“スーパーコンピューター”を使う時代になる。インターフェイスとして「映像」や「音声」が利用できるようになる。コンピューティングがエネルギーや医療、農業など幅広い分野へと広がっていく。人や企業が「つながる」ことが当たり前になり、ビジネスのあり方やマーケティング戦略が大きく変わっていく。

インテリジェント・コンピューティング

「クラウド」によって、「人工知能」が普通に使える時代になる。コンピューターが単なる記録装置ではなくなり、本格的に知能を持ち始める。ごく近い将来、自動車もテレビも住宅も「しゃべる」ことが当たり前になる。モノと会話できるようになれば、操作方法はもちろん、デザインやアピールすべきポイントなどいろいろなことが変わっていく。

トリプル・ベロシティ

「クラウド」によって、商流・物流・金流という3つのビジネスの基本的な流れが変わる。小売流通のあり方、マーケティングの手法、決済手段などが一気に変わることになる。どのような分野のビジネスでも、商流・物流・金流に無関係なものなどない。それらが同時多発的に変わることは、ビジネスの「大前提」や「ルール」が変わることを意味する。

